

修士論文(要旨)

2016年1月

在宅要介護者と主介護者双方の介護満足度を規定する要因

指導 渡辺修一郎 教授

老年学研究科

老年学専攻

214J6008

高瀬明子

Master's Thesis (Abstract)

January 2016

The Factors Determining Care Satisfaction in Homecare Recipients and  
Caregiving Satisfaction in Primary Caregivers

Akiko Takase

214J6008

Master's Program in Gerontology

Graduate School of Gerontology

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Shuichiro Watanabe

## 目次

|     |                                     |    |
|-----|-------------------------------------|----|
| 第1章 | 緒言                                  | 1  |
| 1.  | 研究背景                                | 1  |
| 2.  | 先行研究と本研究の意義                         | 1  |
| 3.  | 研究目的                                | 2  |
| 4.  | 用語の定義                               | 2  |
| 第2章 | 研究方法                                | 3  |
| 1.  | 調査対象                                | 3  |
| 2.  | 調査方法                                | 3  |
| 3.  | 調査項目                                | 3  |
| 4.  | 分析方法                                | 4  |
| 5.  | 倫理的配慮                               | 4  |
| 第3章 | 結果                                  | 5  |
| 1.  | 主介護者, 在宅要介護者の基本属性                   | 5  |
| 2.  | 主介護者および在宅要介護者の介護満足度, および, 介護者被介護者関係 | 6  |
| 3.  | 主介護者の介護満足度の関連要因                     | 6  |
| 4.  | 在宅要介護者の介護満足度の関連要因                   | 7  |
| 5.  | 介護者被介護者関係性の関連要因                     | 8  |
| 6.  |                                     |    |
| 第4章 | 考察                                  | 8  |
| 1.  | 対象の属性                               | 8  |
| 2.  | 主介護者の介護満足度に関連する要因                   | 9  |
| 3.  | 在宅要介護者の介護満足度に関連する要因                 | 9  |
| 4.  | 介護者被介護者関係性規定要因                      | 10 |
| 5.  | 介護者被介護者関係性および主介護者・在宅要介護者の介護満足度の相互関係 | 10 |
| 第5章 | 結論                                  | 11 |
|     | 謝辞                                  | 12 |

引用参考文献  
資料

## 第1章 緒言

超高齢化が進む中でニーズが高まる在宅介護に関しては、介護肯定感や介護負担に関する研究が多く、介護満足度に関する研究は少ない。とくに介護者と要介護者の双方の介護満足度に着目した研究はほとんどない。そこで本研究は、主介護者の要介護者に対する介護への満足度（主介護者の介護満足度）と在宅要介護者が主介護者から受ける介護に対する満足度（在宅要介護者の介護満足度）を明らかにし、これらの関連要因を明らかにすることを目的に行った。

## 第2章 研究方法

総合病院に外来通院中の60歳以上で認知症のない在宅要介護者と、その主介護者86組に別個に聞き取り調査を行った。主介護者の介護満足度は、介護満足感尺度（在宅介護者用）を用いた。在宅要介護者の介護満足度は、対象の95%以上が介護を受けていた「通院の付き添い」と「コミュニケーション」に対する満足度を用いた。また、主介護者と在宅要介護者双方の関係性の指標として「介護者・患者関係アセスメント票」より算出したCaretaker-Patient Relationship (CPR) スコアを用いた。なお、本研究は桜美林大学の研究倫理委員会の承認を得たうえで実施した。

## 第3章 結果

主介護者は、平均年齢64.5歳（標準偏差11.8歳）で、男性33名、女性53名であった。在宅要介護者は、男性27名（78.7±7.4歳）、女性59名（83.3±7.2歳）で、Barthel Indexは平均72.0点と自立度が高かった。主介護者の介護満足度は中程度以上の高い群が9割以上を占めていた。在宅要介護者の介護満足度も高い水準にあった。

主介護者の介護満足度は、主介護者が男性の方が低く、また、介護期間が長いほど低下する傾向がみられた。一方、要介護者の自立度が高いほど介護満足度は低下する傾向がみられた。

在宅要介護者の「通院の付き添い満足度」は、要介護未認定群では介護者被介護者関係性が低いと在宅要介護者の通院の付き添いに対する満足度が低くなる関係が認められた。

在宅要介護者の「コミュニケーション満足度」は、在宅要介護者が女性で主介護者が男性の場合に低かった。また、要介護者の年齢が上昇するほど「コミュニケーション満足度」が有意に上昇していた。要介護度については要支援の場合に、在宅要介護者のコミュニケーション満足度が低くなる傾向が認められた。

介護者被介護者関係性の関連要因として、主介護者の年齢が上がるほど介護者被介護者関係性が低くなる、主介護者が男性の方が介護者被介護者関係性が高い、主介護者が病気を有する方が介護者被介護者関係性が低い、主介護者の病気があることが介護者被介護者関係性を下げる度合いは副介護者がいない場合により大きいことが明らかになった。

## 第4章 考察

主介護者の平均年齢は64.5歳と高く老々介護の状態であり、病気を持っている割合が高かった。多変量解析にて主介護者の介護満足度の関連要因を検討した結果、介護期間が長くなるほど介護満足感尺度が低下する関係がみられ、介護負担と介護満足度との関連が示唆されたが、要介護者の自立度については、自立度が高くなるほど介護満足感尺度が低下する傾向がみられ、介護満足度と介護負担感の要因は異なる可能性が示唆された。

在宅要介護者が受けている介護について、多くの項目で6割以上が満足と答えた背景の一つには、本研究対象が外来受診者で、自立度が高かったことが影響しているものと考えられた。そこで本研究では在宅要介護者の介護満足度については、在宅要介護者の9割以上が介護を受けている項目である「通院の付き添い」と「コミュニケーション」の項目について、その関連要因を検討した。CPRスコアが高いほど通院の付き添いに対する満足度は高く、在宅要介護者の介護満足度については、主介護者と在宅要介護者の双方の関係の良さがお互いの介護満足度に好影響を及ぼすのではないかと考えられた。また、在宅要介護者が女性で主介護者が男性の組合せの場合「コミュニケーションの満足度」は低下しやすいようであり、とくに、男性が主介護者になる場合、コミュニケーションスキルをより強化する必要があるのではないかと考えられた。主介護者が子の配偶者の場合にも満足度が低い傾向がみられたことから、介護の場面においても、舅、姑問題が残存し続いているのではないかと考えられた。

本研究対象のおよそ4分の1には副介護者がいなかった。とくに副介護者がいない場合には主介護者の病気があることが主介護者と在宅要介護者の関係性の良さを下げる度合いはより大きかったことから、これらの主介護者については社会的な介護支援が必要ではないかと考えられた。

## 参考文献

- 1) 厚生労働省, 介護保険事業状況報告の概要 (暫定版)  
([www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/osirase/jigyo/ml2/1209.html](http://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/osirase/jigyo/ml2/1209.html), 2014. 7.1 アクセス)  
(2012).
- 2) 内閣府, 高齢社会対策に関する調査  
([www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h24/sougou/gaiyo/](http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h24/sougou/gaiyo/), 2014. 7.1 アクセス) (2012).
- 3) 厚生労働省, 国民生活基礎調査  
([www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa10/](http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa10/), 2014. 7.1 アクセス) (2010).
- 4) 牧迫飛雄馬, 阿部勉, 阿部恵一郎, 小林聖美, 小口理恵, 大沼剛, 島田裕之, 中村好男: 在宅要介護者の主介護者における介護負担感に関与する要因についての研究, 日本老年医学会雑誌, 45 (1), 59-67 (2008).
- 5) 満田友美: 介護者・高齢者間のコミュニケーション態度と介護意識との関連, 広島大学院心理臨床教育センター紀要, 第6巻, 67-74 (2007).
- 6) 水野敏子: 介護者と要介護者との介護役割認知のズレと介護負担感, 日本看護科学開始, 12 (2), 17-29 (1992).
- 7) 岡崎素子: 要介護高齢者の介護家族に関する研究の動向と課題, 日本保健医療行動科学会年報, (15), 268-285 (2000).
- 8) 神前裕子: 「介護満足感尺度 (在宅介護者用)」の作成, 聖心女子大学大学院論集, 28 (2), 114-128 (2006).
- 9) 山本里美・長谷川博亮・結城佳子: 高齢者の生活満足度とこれからの生活への準備性に関する研究, (30), 29-36 (2012).
- 10) 市川伸一・中川正宣・大井玄・鈴木重任・深山智代・武長修行・甲斐一郎・山崎信行・山本俊一・柄沢昭秀・名嘉幸一・當山富士子: 虚弱老人のための介護者・患者関係アセスメントの試み, 日本公衆衛生雑誌, 32 (5), 253-257 (1985).
- 11) 原田真里子: 在宅ターミナルにおける家族介護者の QOL の特徴-満足度と QOL の関連-, 秋田大学医学部保健学科紀要, 2, 111-118 (2003).
- 12) 増子正: 高齢者と介護者の QOL 分析, 仙台大学紀要, 32 (2), 9-15 (2001).
- 13) 斎藤民・村田千代栄・鄭丞媛・近藤克則: 男女別にみた家族介護者に従事する高齢者の介護状況と特徴-非介護者との比較から-, 老年社会科学, 37 (2), 215 (2015).
- 14) 中越竜馬・武政誠一・中山可奈子・森岡寛文・雄山正崇: 在宅高齢者の ADL とその家族介護者の QOL・介護負担感の縦断的な変化に影響を及ぼす要因について, 理学療法科学, 29 (1), 87-95 (2014).
- 15) 平松誠: 家族介護者の介護負担感と関連する要因の研究, 第1報, 厚生指針, (2006).
- 16) 張夢瑤・宮城孝: 軽・中度要介護高齢者の主介護者における介護満足感に関する要因の分析, 日本社会福祉学会, (2014).
- 17) 松村剛志: 介護関係の発生による夫婦関係の変化-夫婦間介護をめぐる語りの分析を通じて-, 保健医療社会学論集, 16 (1), 25-36 (2005).
- 18) 森山恵美: 配偶者間介護に対する女性高齢者の介護観の様相, 神奈川歯科大学短期大学部紀要, 1号, 95-103 (2014).